



A decorative border with floral motifs at the corners and a vine-like pattern with leaves running along the edges.

新潮日本古典集成

萬 葉 集

五

青木生子 井手至 伊藤 博
清水克彦 橋本四郎 校注

新潮社版

新潮日本古典集成 (第六六回)

萬葉集 五



定価 二二〇〇円

校注者

昭和五十九年九月五日 印刷
昭和五十九年九月十日 発行
青木生子・井手 至

伊藤 博・清水克彦
橋本四郎

発行者

佐藤 亮 一

印刷所

大日本印刷株式会社

発行所

株式会社 新潮 社

〒一六二 東京都新宿区矢来町七二

電話 東京03(二六六)五一(業務)

東京03(二六六)五四(編集)

振替 東京 四一八〇八

装画 佐多 芳 郎

組版 シーティエス大日本

製本 加藤製本株式会社

乱丁・落丁本は、御面倒ですが小社通信係宛御送付
下さい。送料小社負担にてお取替えいたします。

© Takako Aoki, Itaru Ide, Haku Ito, Katsuhiko
Shimizu, Shiro Hashimoto, Printed in Japan, 1984.

ISBN4-10-620366-9 C0392

目次

凡例	三
----	---

卷第十七	四
------	---

卷第十八	一五
------	----

卷第十九	一六九
------	-----

卷第二十	二四二
------	-----

解説

萬葉集の世界(五) 萬葉びとの「ことば」ところ	井手至 三三五
萬葉集の生いたち(五) 卷十七、卷二十の生いたち	伊藤博 三六七

付録

参考地図	四三五
------	-----

通卷付録

皇族・諸氏系図

四三

上代官位相当表

四九

人名索引

四五

萬葉集 卷第十七

天平二年の十一月に、大宰帥大伴卿、大納言に任けらえて京に上る時に、倭從等、別に海路を取りて羈旅を悲傷しび、おのもおのも所心を陳べて作る歌十首……………

三八九〇―三八九四

四三

天平十年の七月の七日の夜に、独り天漢を仰ぎて、いささかに懷を述ふる一首……………

三八九八―三八九九

四五

天平十二年の十二月の九日に、大宰の時の梅花に追ひて和ふる新しき歌六首……………

三八九五―三八九七

四六

天平十三年の二月に、三香の原の新都を讀むる歌一首并せて短歌一首……………

三八九〇―三八九四

四六

反歌……………

三八九七―三八九八

四八

四月の二日に、大伴宿禰書持、霍公鳥を詠みて、奈良の宅より兄家持に贈……………

三八九八―三八九九

四九

る歌一首 *

四月の三日に、内舎人大伴宿禰家持、久邇の京より弟書持に報へ送る歌

三九〇九—三九一〇

四九

三首 *

霍公鳥を思ふ歌一首

田口朝臣馬長

三九一一—三九一三

五〇

山部宿禰赤人、春鶯を詠む歌一首

三九一四

五一

天平十六年の四月の五日に、独り平城の故宅に居りて作る歌六首

大伴宿禰家持

三九一六—三九二一

五二

天平十八年の正月、雪の零る日に、太上天皇の御在所に肆宴したまふ時の

歌五首 *

三九二二—三九二六

五五

左大臣橘宿禰、詔に応ふる歌一首

三九二二

五五

紀朝臣清人、詔に応ふる歌一首

三九二三

五五

紀朝臣男梶、詔に応ふる歌一首

三九二四

五五

葛井連諸会、詔に応ふる歌一首

三九二五

五六

大伴宿禰家持、詔に応ふる歌一首

三九二六

五六

七月に、越中の国の守大伴宿禰家持、任所に赴く時に、姑大伴氏坂

上郎女が家持に贈る歌二首 *

三九二七—三九二八

五八

さらに越中の国に贈る歌二首

三九二九—三九三〇

五九

平群氏女郎、越中守大伴宿禰家持に贈る歌十二首

三九三一—三九四二

六〇

八月の七日の夜に、守大伴宿禰家持が館に集ひて宴する歌十三首

守大伴宿禰家持・掾大伴宿禰池主・大目

秦忌寸八千島・史生土師宿禰道良等

主人八千島

大目秦忌寸八千島が館にして宴する歌一首

九月の二十五日に、長逝せる弟を哀傷しふる歌一首 并せて短歌

越中守大伴宿禰家持

反歌 *

十一月に、大帳使掾大伴宿禰池主が本任に還り至る時に、相ひて歎ぶる歌

二首

守大伴宿禰家持 *

天平十九年の二月の二十日に、たちまちに枉疾に沈み、ほとほとに泉路に

臨みて、悲緒を申ぶる一首 并せて短歌

守大伴宿禰家持

反歌 *

二月の二十九日に、掾大伴宿禰池主に贈る悲歌二首

大伴宿禰家持

三月の二日に、守大伴宿禰家持に答ふる歌二首

掾大伴宿禰池主 *

三月の三日に、さらに贈る歌一首 并せて短歌

大伴宿禰家持

反歌 *

三月の四日、七言、晩春三日遊覧一首 并せて序

大伴宿禰池主

三月の五日に、守大伴宿禰家持に和ふる歌一首 并せて短歌

大伴宿禰池主 *

三九四三、三九五五

三九六六

三九六六

三九六七、三九六九

三九六八、三九六九

三九六〇、三九六六

三九六六

三九六六、三九六四

三九六六、三九六四

三九六六、三九六六

三九六六、三九六六

三九六六、三九六六

三九六六、三九六六

三九六六、三九六六

三九六六、三九六六

三九六六、三九六六

反歌 *

三月の五日に、掾大伴宿禰池主に贈る七言一首 短歌一首

大伴宿禰家持 *

三九四 ~ 三九七

八三

七言一首

短歌二首

三月の二十日の夜の裏に、恋緒を述ぶる歌一首 并せて短歌

大伴宿禰家持

三九六 ~ 三九七

八四

反歌 *

三月の二十九日に、立夏より累日を経るに、なほし霍公鳥の喧くを聞か

三九七 ~ 三九八

八七

ぬことを恨むる歌二首

大伴宿禰家持 *

三九八 ~ 三九八

八八

三月の三十日、二上山の賦一首 并せて短歌

大伴宿禰家持

三九八 ~ 三九八

八九

反歌 *

四月の十六日の夜の裏に、遙かに霍公鳥の喧くを聞きて、懷を述ぶる歌一

三九八 ~ 三九八

九〇

首

大伴宿禰家持

三九八

九〇

四月の二十日に、大目秦忌寸八千島が館にして、正税帳使守大伴宿禰家

持を餞する宴の歌二首

守大伴宿禰家持

三九九 ~ 三九九

九二

四月の二十四日に、布勢の水海に遊覧する賦一首 并せて短歌

守大伴宿禰家持

三九九 ~ 三九九

九三

反歌 *

四月の二十六日に、敬みて布勢の水海に遊覧する賦に和ふる一首 并せて一

三九九

九三

絶つ

掾大伴宿禰池主……………三九三、三九四
九三

反歌*……………三九四
九五

四月の二十六日に、掾大伴宿禰池主が館にして、税帳使守大伴宿禰家持を

饒する宴の歌 并せて古歌 四首 大伴宿禰家持・介内蔵忌寸繩麻呂等……………三九六、三九八
九五

四月の二十六日に、守大伴宿禰家持が館にして飲宴する歌一首

守大伴宿禰家持……………三九九
九七

四月の二十七日、立山の賦一首 并せて短歌

反歌*……………四〇〇、四〇一
九八

四月の二十八日に、敬みて立山の賦に和ふる一首 并せて二絶

掾大伴宿禰池主……………四〇二、四〇五
九九

反歌*……………四〇五、四〇六
九九

四月の三十日に、京に入ることやくやくに近つき、悲情撥ひかたくして懷

を述ぶる一首 并せて一絶 大伴宿禰家持……………四〇六、四〇七
一〇〇

反歌*……………四〇七
一〇一

五月の二日に、たちまちに京に入らむとして懷を述ぶる作を見て、いささ

かに所心を奉る一首 并せて二絶 大伴宿禰池主*……………四〇八、四一〇
一〇二

反歌*……………四〇九、四一〇
一〇三

九月の二十六日に、放逸れたる鷹を思ひて夢見、感悦びて作る歌一首 并

せて短歌

守大伴宿禰家持

四〇二、四〇三

一〇四

反歌*

四〇二、四〇三

一〇六

高市連黒人が歌一首 年月審らか
にあらず

三國真人五百国伝誦

四〇六

一〇八

天平二十年の正月の二十九日の歌四首

大伴宿禰家持*

四〇七、四〇八

一〇八

春の出挙によりて諸郡を巡行し、時に当り所に當りて属目して作る歌九首

大伴宿禰家持*

四〇九、四一〇

一一〇

礪波の郡の雄神の川辺にして作る歌一首

四一一

一一〇

婦負の郡にして鶴坂の川辺を渡る時に作る一首

四一二

一一〇

鶴を潜くる人を見て作る歌一首

四一三

一一〇

新川の郡にして延槻川を渡る時に作る歌一首

四一四

一一一

気太の神宮に赴き参り、海辺を行く時に作る歌一首

四一五

一一一

能登の郡にして香島の津より舟を発し、熊来の村をさして往く時に作る

四一六

一一一

歌二首

四一六、四一七

一一一

鳳至の郡にして饒石川を渡る時に作る歌一首

四一八

一一一

珠洲の郡より舟を発し、治布に還る時に、長浜の湾に泊り、月の光を仰

四一九

一一二

ぎ見て作る歌一首

四二〇

一一二

鶯の晩く啼くを恨むる歌一首

四二一

一一三

酒を造る歌一首

大伴宿禰家持

四二二

一一三

大伴宿禰家持

四二二

一一三

大伴宿禰家持

四二二

一一三

萬葉集 卷第十八

天平二十年の三月の二十三日に、左大臣橘家の使者、造酒司令史田辺史福麻呂に、守大伴宿禰家持が館にして饗する時に、おのおの心緒を述ぶる歌……

PO131 ~ PO137 一一七

田辺史福麻呂が歌四首 *

PO131 ~ PO134 一一七

三月の二十四日、時に、明日に布勢の水海に遊覽せむことを期ひ、よりて、懷を述べておのおの作る歌十首

田辺史福麻呂・守大伴宿禰家持……PO135 ~ PO141 一二八

三月の二十五日に、布勢の水海に往くに、道中、馬の上にして口号ぶ二首……

PO142 ~ PO143 一二九

水海に至りて遊覽する時に、おのおの懷を述べて作る歌十五首

田辺史福麻呂・遊行女婦土師・大伴宿禰家持・掾久米朝臣広繩……PO144 ~ PO158 一三〇

三月の二十六日に、掾久米朝臣広繩が館にして、田辺史福麻呂に饗する宴

の歌四首 田辺史福麻呂・久米朝臣広繩・大伴宿禰家持……PO159 ~ PO162 一三四

太上皇、難波の宮に御在す時の歌七首 清足姫天皇なり

田辺史福麻呂伝誦

四〇六六～四〇六七

一三五

左大臣橘宿禰が歌一首

四〇六八

一三五

御製歌一首 和

四〇六九

一三六

御製歌一首

四〇七〇

一三六

河内女王が歌一首

四〇七〇

一三七

粟田女王が歌一首

四〇七一

一三七

御船綱手をもちて江を浜り、遊宴する日に作る歌一首 *

四〇七二～四〇七三

一三七

後に橘の歌に追ひて和ふる二首

大伴宿禰家持

四〇七三～四〇七四

一三八

射水の郡の駅の館の柱に題著す歌一首

山上臣 名を審らかにせず

四〇七五

一三九

四月の一日に、掾久米朝臣広繩が館にして宴する歌四首

大伴宿禰家持・遊行女婦土師・羽咋の郡の擬主帳能登臣乙美

四〇七六～四〇七八

一三九

天平二十一年の三月に、先の国師の從僧清見、京師に入らむとするにより

て饗宴する時に作る歌三首

主人大伴宿禰家持 *

四〇七九～四〇八〇

一四〇

庭中の牛麦が花を詠む歌一首

四〇八一

一四〇

柳に寄する歌一首 *

四〇八二

一四一

月光に寄する歌一首 *

四〇八三

一四一

三月の十五日に、越 前の国の掾大伴宿禰池主が來贈する歌三首

四〇八四～四〇八六

一四二

一 古人云はく

四〇八七

一四三

一 物に属きて思ひを發す……………四〇七四 一三三

一 所心の歌……………四〇七五 一三四

三月の十六日に、越中の国の守大伴家持、報へ贈る歌四首……………四〇七六 一三四

一 古人云はくに答ふる……………四〇七六 一三四

一 属目して思ひを發すに答へ、兼ねて遷任したる旧宅の西北の隅の桜樹を詠みて云ふ……………四〇七七 一三四

一 所心に答へ、すなはち古人の跡をもちて、今日の意に代ふる……………四〇七八 一三五

一 さらに属目……………四〇七九 一三五

姑大伴氏坂上郎女、越中の守大伴宿禰家持に來贈する歌二首……………四〇八〇 一三六

四日に、越中の守大伴宿禰家持、報ふる歌并せて所心三首……………四〇八一 一三六

報ふる歌二首……………四〇八二 一三六

別に所心一首……………四〇八三 一三七

天平感宝元年の五月の五日に、東大寺の占墾地使の僧平栄等に饗する時……………四〇八四 一三七

に、守大伴宿禰家持、酒を僧に送る歌一首……………四〇八五 一三七

五月の九日に、諸僚、少目秦伊美吉石竹が館に会ひて飲宴し、主人、百合の花機三枚を造りて賓客に捧げ贈る時に、おのおのもこの機を賦……………四〇八六 一三八

して作る三首……………四〇八七 一三八

守大伴宿禰家持・介内蔵伊美吉繩麻呂……………四〇八八 一三八

五月の十日に、独り幄の裏に居り、遙かに霍公鳥の喧くを聞きて作る歌一……………四〇八九 一三八

首 并せて短歌

大伴宿禰家持

四〇八九～四〇九二

一三九

反歌

阿尾の浦に行く日に作る歌一首

大伴宿禰家持

四〇九〇～四〇九三

一四〇

五月の十二日に、陸奥の国に金を出だす

詔書を賀く歌一首 并せて短歌

大伴宿禰家持

四〇九四～四〇九七

一四一

反歌三首

五月の十四日に、吉野の離宮に幸行す時のために、儲けて作る歌一首 并

大伴宿禰家持

四〇九六～四〇九九

一四二

せて短歌

反歌

五月の十四日に、京の家に贈るために、真珠を願ふ歌一首 并せて短歌

大伴宿禰家持

四〇一〇～四〇一三

一四三

反歌*

四〇一四

一四四

四〇一五

一四五

四〇一六

一四六

五月の十五日に、史生尾張少昨を教へ諭す歌一首 并せて短歌

守大伴宿禰家持

四〇一七～四〇二〇

一四七

反歌三首

四〇二一～四〇二四

一四八

五月の十七日に、先妻、夫君の喚ぶ使を待たずして自ら来る時に、作る歌

一首

大伴宿禰家持……………四〇一

閏の五月の二十三日、橘の歌一首 并せて短歌

大伴宿禰家持……………四一〇

反歌一首

大伴宿禰家持……………四二〇

閏の五月の二十六日に、庭中の花を見て作る歌一首 并せて短歌

大伴宿禰家持……………四三〇

反歌二首

大伴宿禰家持……………四四〇

閏の五月の二十七日に、朝集使 掾久米朝臣広繩が本任に還り至る時に、

主人、守大伴宿禰家持が作る歌一首 并せて短歌……………四五〇

反歌二首

大伴宿禰家持……………四六〇

霍公鳥の喧くを聞きて作る歌一首

大伴宿禰家持……………四七〇

閏の五月の二十八日に、京に向ふ時に貴人を見また美人に相ひて飲宴する

大伴宿禰家持……………四八〇

日のために、懷を述べ儲けて作る歌二首

大伴宿禰家持……………四九〇

六月の一日の晩頭に、たちまちに雨雲の氣を見て作る雲の歌一首 短歌一絶

大伴宿禰家持……………五〇〇

守大伴宿禰家持……………五一〇

反歌一首

大伴宿禰家持……………五二〇

六月の四日に、雨落るを賀く歌一首

大伴宿禰家持……………五三〇

七月の七日、七夕の歌一首 并せて短歌

大伴宿禰家持……………五四〇

反歌二首

天平勝宝元年の十一月の十二日に、越前の国の掾大伴宿禰池主が来

贈する戯歌四首

十二月の十五日に、さらに来贈する歌二首

十二月に、宴席にして雪月梅花を詠む歌一首

少目秦伊美吉石竹が館の宴にして作る歌一首

天平勝宝二年の正月の二日に、国庁にして饗を諸の郡司等に給ふ宴の歌一

首

正月の五日に、判官久米朝臣広繩が館にして宴する歌一首

二月の十八日に、壱田地を檢察する事によりて、礪波の郡の主帳多治比部

北里が家に宿する時に、たちまちに風雨起り、辞去すること得ずして作

る歌一首

守大伴宿禰家持

四二六

一六七

守大伴宿禰家持

四二六

一六六

守大伴宿禰家持

四二七

一六七

大伴宿禰池主

四二八

一六四

大伴宿禰家持

四二九

一六六

守大伴宿禰家持

四三〇

一六六

萬葉集 卷第十九

天平勝宝二年の三月の一日の暮に、春苑の桃李の花を眺鷹めて作る歌一首

一七一